

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200230		
法人名	株式会社 倉敷夢工房		
事業所名	グループホーム 福島の里		
所在地	岡山県倉敷市福島437番地		
自己評価作成日	平成31年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成31年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中でも非日常的な生活を感じていただけるように、ホーム内で催す季節ごとの行事他に、散歩はもちろん、外食やドライブ会、幼稚園小学校の運動会、買い物や映画館などへ積極的に外出することに取り組んでいます。そうした際に、行き先や食事内容をご利用者の希望をお聞きして、できる限りの対応、実現をし、自己決定の満足感の充実をはかっています。毎日のラジオ体操や棒体操、散歩に加え、毎月プチ運動会を行い、健康維持管理に努めています。また、町内会に加入しており、町内の清掃活動やあいさつ運動、夏祭り、グランドゴルフ大会などの行事に加え、地域の自主防災訓練にも参加しています。近隣の小学校の課外活動で福祉施設の見学を受け入れたり、児童の絵画を展示したり、地域のボランティアとの定期的な交流も行っています。放課後には近所の子供たちがホームに訪れ、ご利用者と一緒に、カルタとりやゲームなどで遊んでいます。理念に掲げているように、地域に開かれ、地域に根付いた施設として活動しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年明け早々、予期せぬ社長の交代劇に見舞われた経緯もあって介護現場にも混乱と動揺が走ったが、前社長の息子さんを新社長として迎え、訪問した時にはいつもの「福島の里」の業務が遂行されていた。管理者、両ユニットの計画作成担当者の3名は共に勤務年数11年目であり、このホームを背負ってきた同志でありお互いの息もピッタリである。地域が認知症に理解があり、協力的で、ホームも地域に溶け込んだ「家」になっている。最近の嬉しいニュースは、元利用者のお孫さんが家族の勧めもあってこのホームに就職した事だそうだ。すぐ隣が小学校という地の利もあり、子供達との距離感も近くまさに地域密着型サービスの模範のような地域交流と活動を展開している。これまでの「閉じこもらない。積極的に外に出ていく」というこのホームの前向きな姿勢と取り組みが、今の「福島の里」を創り上げたのだろう。ここに是非入りたいと希望する人も多く、常に待機者が数名いるのも頷ける。今後の活躍を期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠実・勤勉・感謝」の心を常を持って利用者と向き合い、サービスの提供を行うように各ユニットに掲示している。また、代表者からスタッフへこの理念の共有、実践をいくつに定期的なミーティングを行っている。	理念は仏教の教えに基づいたものであり、年数回ある社長の講話はホームの伝統になっている。その他にも2ヶ月毎に3項目程目標を立て、各自反省や振り返りをしながら意識を高く持ち日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園や小学校の行事に参加、毎月1回朝の小学生の通学時間に通学路にてあいさつ運動を行い、またホームにて児童の絵画を展示している。町内会の行事にも積極的に参加している。	地域に開けたホームを目指しており、様々な地域のボランティアや子供達の訪問がある。町内会の川掃除、防災訓練、神社の祭り等にも参加して交流を積極的に行い、地域貢献にも役立っている。ホームに対する認識度も高く地域密着型サービスの模範に近い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地区の代表の方に参加していただき、ホームの提供サービスの内容を報告したり、認知症の方への理解を深めていただけるようにしている。また、個別でのご相談にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの事業内容報告だけでなく、参加者の方から情報や意見、要望等を参考にサービス向上につなげている。また、町内の方や地域包括からホームでのイベント等の情報発信にもご協力いただいている。	行政・地域・家族・利用者・他GH等のメンバーで、年6回、確実に運営推進会議が開催されており、参加者とその場で交わされる意見交換の様子が目に浮かぶようなども詳細な議事録であり、運営、地域交流、災害対策等の話し合いをして有意義な会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議に毎回出席していただき、サービスの現状を知っていただくことと、またホームが抱えている諸問題について相談、協議を行う等で協力体制を築いている。	日頃から良い連携が保たれているので、ホーム運営に関しても理解が得られている。市主催の大規模災害への備えの防災セミナーに参加したり、近々社長も講師をする予定と聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より身体拘束等適正化委員会を発足した。3か月に一度は定期開催している。年間6回は介護に関する勉強会を行い、身体拘束防止について全スタッフが理解を深めるように努めている。	現在身体拘束に該当する人はいない。言葉による抑制についても日頃から職員同士で意識付けをして、声かけや対応を工夫している。パチンコ好きな男性のAさんに「お守り」と言ってココセコム(GPS)を持ってもらったというユニークな話もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間6回は介護に関する勉強会を行い、高齢者虐待防止について全スタッフが理解を深めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用している利用者もおられ、また利用に至るまでの申請手続きを代行した経験もある。利用に際しての問題等は市及び専門家へ相談・助言を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に際しては、契約書・重要事項説明書・その他付随文書を説明、交付して、十分な理解と納得をしていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご利用者、ご家族も参加している。「福島の里便り」や「近況報告書」で現況を伝え、面会の際にサービスに対するご要望をお伺いしている。同じく、ケアプランのご説明の際に、ご家族のご意見ご要望を聴き取り、運営に反映している。	利用料を施設に持参する事で、家族と話し合う機会も多く、気軽に意見や要望を言いやすい雰囲気がこのホームにはある。会議やイベントに参加する等、協力的な家族も多く、いただいた意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置して、改善点の意見・要望を聴き取ったり、定期的な全職員でのミーティングやユニット会議にて意見・提案を出していく機会を設けている。	年1回代表者との個人面談や職員用の意見箱(匿名)を設置して、広く意見・要望を吸い上げるようにしている。現在の人員体制としてマンパワー不足はあるが、夜勤中心の職員がいるので、日中の業務に差支えはない。職員間のコミュニケーションがよく取れており結束力がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や資格に応じた給与と将来のスキルアップを促すため、職能手当などで、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修及び勉強会にてスタッフの資質向上を図っている。働きながら資格取得を目指す、制度を活用しスキルアップできる様支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加したり、地域ケアマネ交流会にも参加し、情報交換を行い、それを参考に当ホームでのサービスの質の向上を図ることに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の基礎情報と、入居前検診を基に、ご本人としっかり向き合っ、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりお伺いした不安や要望をサービス内容に取り入れ、また、ご家族の要望に応じて入居してからしばらくのご様子をこまめに報告を行うことで安心して利用していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時にご本人・ご家族と面談を行った上で、必要な支援を見極め、当ホーム以外でのサービス利用を含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ひとりひとりの個性や能力を生かして役割作りや生きがいを持って生活ができるように支援している。散歩や季節の行事を通じてご利用者から教わる機会を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「福島の里便り」や「近況報告書」で現況を伝えており、面会時に意見交換できている。またホームの行事に参加していただき、ご本人とご家族のふれあいの場を提供できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅生活時からの楽しみとしていた場所(買い物や理容院、町内や店舗のイベント等)へご本人と相談しながら、可能な限り出かけられるように支援している。	家族や知人・友人の面会はもとより、地域の子供達も気軽に遊びに来てくれる事も多く、利用者とも馴染みの関係になっている。退居した利用者の家族ともお付き合いが続いており、良い関係が築けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を考慮して、個々のご利用者が安心して暮らせる場所作りと共に、スタッフがご利用者間の人間関係の調整に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度退居となったのち、再入居された方や、以前親族が入居してここが良いと相談を受け、入居された方もいる。必要に応じて、契約終了後もご家族からの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフはご利用者の自己決定の重要性を理解し、日常の関わりの中で、言葉にはできないご本人の思いや希望も汲み取りホームでの生活に反映させている。	その人の事をよく知り、想いを引き出す努力をされており、目標達成計画にもあわせて利用者との会話の機会を作るようにしている。本人の望むもの、例えば、食べたい物や行きたい所等を聞いて、その人の自己決定を大事にしている。	1日の中で一人の人とじっくりと向き合って話を聞く「10分間ケア」をしてみたい。聞いてもらったという満足感も得られ、本音を引き出せる時間になるかもしれない。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦シートを作成し、情報を共有している。またご本人やご家族との関わりの中で更に深く理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフはひとりひとりの日常を細やかに把握し、そこから少しの変化に気づくことができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及びご本人の状態に応じて介護計画の作成・見直しを行う。その際、介護スタッフと計画作成担当でカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意向・要望を取り入れるようにしている。	個別化された明瞭なプランを作ろうと取り組んできた成果を介護記録やケアプランからも確認出来た。本人の意向をしっかりと聞き取り職員間で話し合っただけでプランを作成している。しかし、ニーズ・目標に身体機能維持・向上的なものが多いので、心の内面に重点を置いたプラン(心のケア)を立てると尚良い。	ケアプランの意向欄には本人の思いや希望がしっかり記述されているが、ニーズとしての捉え方が意向と連動していない気がする。もっと精神面を充実させるようなプランにして欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状態の記録をご本人の言葉で残し、状態の把握と情報の共有を行い、実際の生活援助のための方針や手技を決定、実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域と交流が深い法人代表者も率先して、社会生活に参加することで、社会から隔離した生活を送ることがないように人や文化にふれる機会を持つことに取り組んでいる。またその都度のニーズに応じて柔軟に対応していけるようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校での行事に参加したり、ホームを小学校の社会見学の間、機会として活用していただいている。町内会に加入し、清掃活動やあいさつ運動、夏祭りなどに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的かつ安心して医療を受けていただけるように、協力医療機関やその他専門診療科医療機関と連携を図り、主治医やその他専門診療科についてはご本人・ご家族に希望を確認している。	協力医の月2回の往診があり、2ヶ月に1回定期受診している3名には家族や職員が付き添っている。この日も医師の往診があり、職員がてきぱきと対応していた。週1回の訪問看護や訪問歯科診療もあり、医療と介護の連携がよく取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師に日常生活の様子や体調の変化等を報告し、助言・指導等を受けて健康管理を行っている。また必要時には看護師の指示及び医師との連携がとれる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に対し、適切な治療を受けられるように細かな情報を提供している。また入院中は定期的に医療機関へ訪問し、治療状況の把握に努め、関係者やご家族と連絡を密にして迅速な退院の受け入れができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化及び終末期に関して基本的な方針を書面にて説明している。その上で、ご利用者のその時の状況によりご本人・ご家族・その他関係機関と協議を行いながら、適切なサービス、その他支援を行っていく体制をつくっている。	ターミナル状態から復活して一時持ち直していた人が本日の往診後、看取りに入り、4例目となった。協力医とはよく連携が取れていて家族も安心してお任せ出来、これまで見送った3名も「平穏死」という表現がピッタリの、家族に看取られながらの穏やかな最期だったそうだ。職員は出来る限り心を込めて支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、新入社員には研修期間にその対応を指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災や地震を想定しての避難・消火・通報訓練を実施している。町内会に加入し、自主防災組織への参加をしている。運営推進会議でも度々議題にあがり、避難者を受け入れる側にも成り得るので、備蓄を増やした。	7月の西日本豪雨ではホームも被害は免れず、玄関先まで水がきたそうだ。非常用の段ボールトイレも作ったと聞いた。高台にある熊野神社までの所要時間が15分かかると、今後の対策も検討中。備蓄の置き場所や備蓄品等も検討し、貴重な体験をした。	折角作った段ボールトイレは利用者が使用しずらく排泄が出来ないという事が分かり、苦い教訓となったと聞いた。様々な課題と直面した今回の災害が、今後の災害対策への改善につながっていく事を期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	脱衣所の中にもカーテンを設置したり、介助や、支援時の声掛けにも、その方に応じた声かけを工夫し、尊厳を損なうことのないような対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、呼称は家族に了解を得て、本人の安心する呼び方をしてコミュニケーションの一つのツールとしている。リビングのテーブルや椅子の配置も利用者同士の相性を考慮して、円満な関係が保てるように住み分けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	整容や入浴等に限らず、個々のレベルに応じた声掛けを行い、できる限り自己決定できる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールに沿った事項でも必ず同意を得てから支援している。また、外出や買い物等も取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型等、できるだけご本人の意思で決めるようにしている。マニキュアやお化粧品等も楽しんでできるように支援している。また、在宅時からの馴染みの理容室へも通っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューを取り入れたり、おやつを作ったりなどをスタッフと一緒に作り、達成感を得られるように支援して、楽しんでもらえるように行っている。	「食べる楽しみ」を第一に考え、自分で食べられる人にはゆっくりその人のペースで食べてもらっている。誕生日には「ギョーザとラーメンが食べたい」とのリクエストに応じて王将に食べに行く等、それぞれの希望を取り入れており、食への意欲や満足感を大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた献立づくりをしている。また嗜好だけでなく、糖尿病や心不全等の体調に応じた食事内容を心がけて、必要な方にはトロミでの対応や水分摂取量も確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に歯科検診を受けて頂き、必要な方には受診の支援を行っている。訪問歯科により受診困難な方の口腔内の清潔保持にも努めている。毎食後に声掛け見守り・介助等の必要な支援にて口腔ケアを実施していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄ができるように支援し、ひとりひとりの身体レベルに応じた介助をスタッフで話し合い、工夫している。	布パンツで排泄が自立の人は少ないが、自室のカレンダーに排便記録をつけている人もいる。基本は全員便座に座っての排泄だが、これまでの生活習慣を守り続けている男性の場合は、職員がしっかり見守りながら掃除や支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	豆類・芋類・バナナ等、高齢の方でも食べやすい食物繊維の多い食材を取り入れるようにしている。また毎日の体操や散歩等を実施して便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望や、心身の状態に応じて対応している。	週3回の入浴が基本であるが、自立の人はなく状態に応じて全員介助が必要である。重度の人は二人介助やシャワー浴で対応している。入浴拒否のある人は、現在のところいないので、職員とコミュニケーションを取りながらゆっくり入浴タイムを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで使用していた家具や寝具をそのまま使用していただいたり、畳間やソファ等、クッションやひざかけを置いてくつろげる空間作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方・効能・副作用等の一覧表を個人別にファイリングして、常に確認できるようにしている。服薬マニュアルを作りスタッフに徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑や庭仕事、洗濯たたみや床掃除等、役割を持って活動している。また囲碁やパズル、読書など、各々好まれることを個別に対応し、満足度の向上を目指している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブや外出、映画鑑賞等を取り入れている。ご家族と外出・外泊もできるように支援している。	社長や管理者と一緒に行く映画鑑賞がこのホームの恒例になっていて、イオン倉敷の中の映画館の車椅子対応席等を利用するとの事。どんな時にも必ず散歩に行っているという程、閉じこもらない取り組みをして出来る限り外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族、ご本人と話し合いをして、金銭管理について取り決めをしている。そのため管理が困難な方には、事務所で管理している場合もあるが、ご本人の希望に応じて買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特定の禁止事項はなく年賀状などハガキを書く支援も行っています。電話についても随時取り繋いでいる。(以前は携帯電話も使用していた)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの生活空間の飾りつけをご利用者とともに作成している。庭の手入れや畑の収穫等をおして生活感や季節感を取り入れるようにしている。	リビングからはゲームに熱中している楽しそうな利用者の声が聞こえてくる。様々なアクティビティが用意されていて余暇活動も活発だ。倉敷市児童作品展の絵画がリビングの至る所に展示され、心の癒しになっている。畳コーナーもあり、昼寝をしたり作業をする和みの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子だけでなく、ソファを置いたり、畳間に座卓を用意してくつろげる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた鏡台やイス等を持参していただき、またご家族の写真を飾る等して落ち着いた居室作りを工夫している。	寝たきりの重度の人でも居室のベッドで快適に過ごせるように、自動で寝返りが出来る介護ロボットを2台導入している。馴染みの家具や思い出の品々、人形等を持ち込みその人らしい居室作りをしており、加湿器を置いて環境にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、入浴状況の案内表示、また、歩行器や車イス等が安全に移動できるよう居室やフロア的环境整備に努めている。		